



Q

男の子3人の母親  
です。義祖父・夫の仏  
壇を見ています。行事の重  
箱お菓子・果物は、私人で  
食べきれず、男の子3人に  
食べさせています。沖縄で  
は「お供え物を男の子に食  
べさせるものではない」と  
聞いたことがあります。タリ  
などが心配です。

(Mさん)

A

沖縄の年中行事。  
お葬式・ご法事などでは、性別(女性・男性)による役割分担をしている男の子がうたわれる現代社会においては、賛否両論の言葉もありますが、まずは代表的なものをご紹介します。

### 女性を中心とするもの

◎旧暦2月吉日(ヤシチヌウ

グワン(屋敷の御願)・旧暦

8月10日(シバサシ(芝差

し)、8月12日の地域・家庭

もある)・旧暦12月24日(ウ

グワンブトウチ(御願ほど

き))など、ヒヌカン(火之神・

ミーヒヌカンガナシー(御火

之神加那志)の担当。

◎旧暦3月吉日・旧暦7月

7日(タナバタ(七夕)・旧

暦8月吉日・旧暦10月吉日

など、シンクチ(洗骨)の担

当。

◎儀式・法要のウカザイ(お

飾り)・ウサギムン(お供え

物)など、ウサンデー(お下がり)の担当。

### 男性を中心とするもの

◎昔、葬列(そうちの)の龕(がん・ひつぎ)・四流旗(しりゅうき・名旗(めいき))など、担ぎ手・翳(かざ)し手の担当。

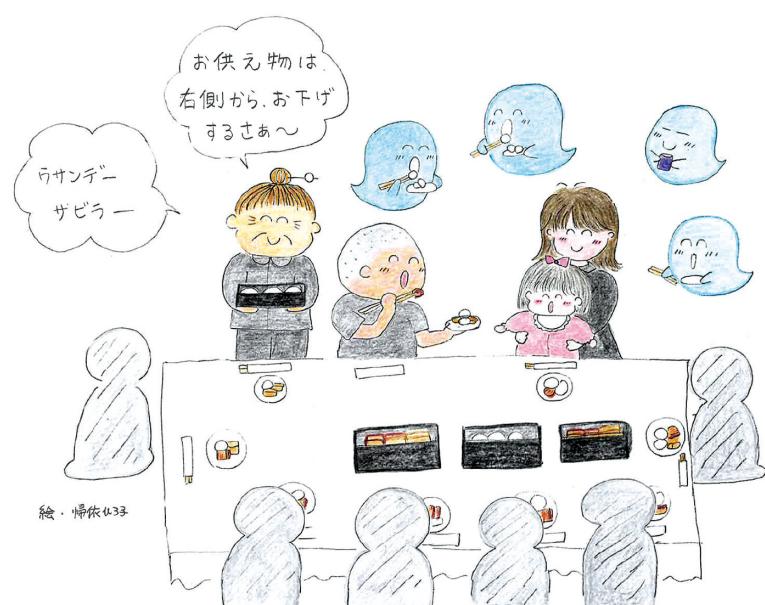
◎お墓のヒラチ(ふたいし)・ウコールイシ(香炉石)など、開門(かいじょう)・閉門(へいじょう)の担当。

◎儀式・法要のウチカビ(打紙)・シルカビ(白紙)など、カビアンジ(カビジン)・紙錢(紙銭)の担当。

**性別にこだわらない理由**  
一方、「お供え物は家族・親族全員で食べる」という考え方を耳にしたこともあります。理由は、「イチミヌヤーニンジュ・エーカヌハンドジョー(この世の家族・親族の繁栄)だから、「お供え物は家族・親族全員で食べる」という理由があります。「教養は毛穴から入る」という格言があります。「ウサンデー・サビラ(お下げいたします)」と、ウサギムンを食べられている3人の息子さんは、その環境にいるだけ無意識のうちに、多くの人が伺つたウサンデーのしきたりの理由を説いてみます。

**ウサンデーは各家庭の判断**  
これは、あくまでも一例ですが、これも地域や家庭によっては逆転することもあります。ですから絶対と言ふ訳ではないのでしょうかが、私が伺つたウサンデーのしきたりの理由を説いてみます。

明してくれた方の個人的な見解です)。  
家庭の判断であることも確かなことのようです。ご相談されたMさんのお宅では、双方を否定することなく性別にとらわれず「お供え物は家族・親族全員で食べる」という考え方を選択されています。「教養は毛穴から入る」という格言があります。「ウサンデー・サビラ(お下げいたします)」と、ウサギムンを食べられている3人の息子さんは、その環境にいるだけ無意識のうちに、多くの人が伺つたウサンデーのしきたりを学ばれていることででしょう。ご心配な沖縄のしきたりを学ばれてく、これからも今のウサンデーを継続してください。Mさん、息子さんたちはとても頼もしですね。



絵: 帰依(43歳)